

# 教育センターだより

あの頃……

県教育センター教育史資料室資料から



夏季保養学校（昭和32年～36年ごろ）  
健康増進の一環として行われた入浴指導  
（淳城第三小学校旧校舎で）

## 第2回夏季教育セミナー開催について

テーマ「これからの学校教育を考える」

も く じ

- ・あの頃、夏季保養学校 県教育センター資料室から… 1
- ・「職能成長をめざして」所長 藤田幸雄 …… 2
- 研修員紹介 …… 2
- ・小学校初任者研修完全実施に向けて …… 3
- ・公開講演シリーズその4「一人一人を生かす生徒指導」… 4・5
- ・秋田県教育風土記（社会科の巻②） …… 6
- ・第2回夏季教育セミナー開催の御案内 …… 7
- ・運営機構、人事異動、刊行物紹介 …… 8

— 第 4 5 号 —

平成元年6月30日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号  
☎ (0188) 32-3594

# 職能成長をめざして

秋田県教育センター所長 藤田 幸雄



藤田 所長

時代の要請に應えるにあたって、長期的展望に立った見地から、これまでの実績と成果をふまえながら、時代の進展に応じた、活力と創造性に満ちた当教育センターの積極的な運営をめざして全所員が一体となって努力しているところである。

さて、ここでは研修というこの意味をふりかえてみたい。

第一に、教師が教師としての力量を高めようと努力するのは当然である。しかし、日々の研鑽ということに口にするのは簡単であるが、ともすればこれまでの経験と知識のうえに安住して、緊張感を失い、日常の業務の中に埋没してしまうことになる危険は常にある、といつてよい。

ある一人の緊張感を失った教師にとつて、毎日と同じことの繰り返しであるかもしれない。だが、日々成長を続け、これからの社会を担うことになる子どもたちにとつて一日は新鮮で輝いていなくてはならない。学校において子どもたちに新鮮さと輝きを与えるのは教師である。

大事なのは、教師の、ひたすら自己研鑽に励む姿である。資質を磨くとともに、時代の進展に応じ、子どもたちの学習要求にこたえられる実践的な指導力を身につけようと努力する

る教師の姿は、そのまま子どもたちへの生きた教育となることができよう。これが教師の自己研鑽の子どもたちにとつての意味である。

職能成長をめざすことの意味と言い換えることもできる。

学校を出て初めて職について、新しく職を変わったときには、だれでも必死に学ぼうとする。その時には書物を読んだり、人の経験や体験を聞き、役に立つ情報を得ようとす

る。しかし、書物や人の経験を、単なる理念や知識として受け取るのではなく、これらを対象として学びながら、また時にはこれらによって考える自分自身を対象としながら、自分の成長をめざし続けることは一層大事なのではなからうか。

「初心にかえれ」というのは使い古された言葉であるが、学び続け、研鑽しつづけることの意味をここから汲み取りたい。職業領域のなかで経験を重ねながら、経験に安住することなく常に成長する軌跡を自分で造っていくことの大切さを強調したのである。

子どもたちの命運が教師の職能成長に託されている、とは言い過ぎであるまい。

教育センターでの研修は、教育現場で職能を生かすための基礎・基本を確固としたものにするためのものである。

## 研修員紹介

- 1・4 / 2・3 / 31 藤原和平(大館一中) 道徳
- 加賀谷信司(城南中) 学級級経営
- 工藤貞夫(西目高) 情報処理
- 石川厚一郎(西仙北高) 同右
- 七尾信廣(南養護) 特殊教育
- 高田 均(角館中) 生徒指導
- 1・4 / 1 / 1・9 / 30 草皆博子(角館高) 情報処理
- 1・4 / 1 / 1・6 / 30 永井 元(新屋高) 理科
- 1・5 / 1 / 1・9 / 30 佐藤正好(比内養護) 特殊教育
- 1・5 / 1 / 1・7 / 31 戸来容子(花輪北小) 道徳
- 柴田和子(野石小) 特別活動
- 須藤幸紀(能代南中) 生徒指導
- 高野夕エ子(吉田小) 算数
- 半田玲子(井川中) 国語
- 鈴木幸一(豊成中) 情報処理
- 1・9 / 1 / 1・11 / 30 加賀谷孔作(館合小) 生徒指導
- 田口直樹(出羽中) 学年学級経営
- 斎藤千鶴子(雄勝中) 道徳
- 米川重修(大館東中) 社会
- 佐藤清美(淳城二小) 情報処理
- 1・9 / 1 / 2・1 / 31 西村広恵(牛島小) 特殊教育
- 西嶋崇広(栗田養護) 特殊教育
- 1・10 / 1 / 2・3 / 31 梁田節子(大曲高) 情報処理

# 初任者研修完全実施に向けて

◇◇今年度から、小学校教員の初任者研修が完全実施となつた◇◇  
◇◇が、( )ではその概要と受講者の心構えをまとめてみる。◇◇

## 研修の必要性

教職のみならず、どの専門職においても、初任者の研修はきわめて重要である。

昨年、社会の変化及び文化の発展に対応する望ましい教育の実現を期して教育改革が叫ばれてきたが、改革の成否は究極のところ教員の力にまつところが大きいのである。

「大学で学び教員免許を得ただけでは、教師としての最低の条件を満たしているに過ぎない」ともいわれている。それだけに初任者教員の研修による資質の向上が急務となるのである。

更にまた、教育の専門家として国民の期待にこたえるためには、絶えず研究と修養に努めなければならぬのであって、特に教育公務員特例法では、研修を受ける機会が与えられなければならないとしている。

秋田県教育委員会、平成元年 初任者研修実施要項

## (1)目的

教育公務員特例法二十条

の2の規定に基づき、現職研修の1環として、一年間の研修を実施し、



初任研(特殊学級部会)で

実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させることを目的とする。

## (2)対象

①平成元年四月一日付で、小学校の教諭として採用された者。但し教諭として国立、公立又は私立の学校において、一年以上勤務した経歴を有する者(他県からの採用者を含む)は、対象外とする。

②県教育委員会又は市町村教育委員会は、その所管する学校の初任者について、「年間研修計画」及び「年間指導計画」に従い、一年間の初任者研修を受けさせるものとする。

## (3)内容

初任者は、学級又は教科科目を担当し、校内において指導教員を中心とする研修(「校内研修」という)を少なくとも年間六十日程度受けるとともに、教育センター等において実施する研修(「校外研修」という)を少なくとも年間三十日程度受けるとする。

・センター研修 十五日

・教育事務所研修 七日  
・地教委研修 七日

・義務教育課研修 一日  
「校外研修」 計 三十日

## 研修の進め方

求められている教員の資質とは、「教育基本法の理念に基づき使命感と、教育の専門家としての幅広い知見に支えられたたくましい実践力」である。

教員は教育の実践を通して力量を伸ばしてゆくものであるから、「校内研修」の果たす役割は大きく、初任研の三分の二の六十日がこれに当てられている。

「校内研修」では指導教員の指導が中心となるが、当該学校の若手の教員も加わった研修会などにより大きな効果をあげ得ることが経験的に確かめられている。このようにして、指導教員の指導は指導日又は指導時間全体の六割を越えることが期待されているが、他の教員の側面からの指導援助ももちろん期待されているのである。

「校内研修」と「校外研修」の内容が時期的に連動しつつ実施され、一層の効果をあげるよう設定されている。

## センター研修について

第一回のセンター研修講座である「合同研修1」(小学校教諭二八九



初任研 学級経営演習風景

名と、試行の中学校教諭二十五名、計三十四名)が四月二十六日(水)県生涯学習センターを会場として実施された。なお、この講座には県保健体育課所管の新規採用養護教諭(十一名)も参加して研修した。

このように、小学校の初任者研修が完全実施となるにともない、受講者数が急増し、県教育センターの収容能力ではまかないきれず、他の施設を借用しなければならぬのが大きな悩みである。

秋田市文化会館や県社会福祉会館で行う講座もあり、また、宿泊研修は、県青年の家で実施する。

また、県教育センターの「夏季教育セミナー(八月)」、「県教育研究発表会(二月)」にも参加して研修する。

このほかに、県北、中央、県南の三地区に分かれて実施される講座もあるので、受講者は「年間研修計画」(白表紙)をよく参照していただきたい。また、初任者研修が円滑に行われるように、初任者の出張に当たっては、授業等の補充の配慮がなされているので校外研修にも積極的に取り組むことを期待したい。

(教職研修部)

公開講演シリーズ（その4）

一人一人を生かす生徒指導

（財）応用教育研究所研究部長 田 中 武 平

時代を反映しながら、生徒指導もその様相をさまざま

に変えている。しかし、生徒の問題行動をよく見つ

めると表面的な変化に力かわらず、その対策には、常に

着実に誠実な実践が要請されている。生徒指導のその不

易の面を田中先生は原点に帰って、丁寧に御指導くだ

さした。これは5月26日全県新任生徒指導主事研修会

で御講演になったものの骨子である。

都市化と問題行動 生徒指導の最

初のキーワードは、「問題行動」で

す。従って、生徒指導を語るとき

には、問題行動の実態と中身をよ

く理解しておく必要があります。

昨今の問題行動の特徴には、東京

都足立区で起こったコンクリート

詰め殺人事件などに見られるよう

に「程を知らない」と言うことが

あります。少し殴ったくらいでは

済まなくて、最後には人命まで奪

うという極限状況に至るわけです。

この事件は都会でおきましたが、

問題行動は「都市化」や「自動車

文明」と密接な関係があります。

第一次産業から人々が離れて農村

が住宅地に変わり、それが膨らん

でいくと問題行動も正比例して増

えてくるわけです。問題行動は、

田舎では起こりにくく、都市で起

こり易い傾向があります。

多い登校拒否 我が国で、どうい

う問題行動があるかということ

昭和六十二年の文部省の調査でみ

ますと、校内暴力やいじめは、次第

に減少しつつあり、登校拒否が大

きくクロスアップしてきていま

す。中学校で約三三、〇〇〇名、

そのうちの半数の一七、〇〇〇名

はする休みです。

登校拒否の直接の契機は、一番

多いのが学業不振です。次に多い

のは、友人関係です。ですから、

これを未然に防止するためには、

授業で親身になってあげること、

そして、教師と生徒の人間関係改

善が何よりも大事です。受験勉強

の強制が登校拒否の原因に上げる

人もおります。母親による過保護、過干渉も登校拒否の引き金になっております。

問題行動への対応 問題行動を多くしている一つにマスコミによる性に関する情報の氾濫があげられます。

しかし、やはり多くの人々は、問題の基本は、家庭にあるということ

を認識しているようです。これに学校がどう対応するかが大事

になってきます。千葉県の先生方を対象に、「生徒指導および学業指

導を困難にさせているものは何か」というアンケートに70%の先生は

きていないと答えています。次に

②責任転嫁③善悪の判断の区別がつかない④学習意欲が乏しいこと

⑤平気で嘘をつくこと⑥人前で悪い意味で格好をつけること等々を

あげておりますが、これらをどうして直していくかが大きな問題と

なります。かけがえのない尊厳さを持つた子供たちをある一定の価値基準に照らして望ましい方向に

育つように援助する過程が生徒指導であるわけですが、そのためには、

実は教師自身も「心の窓」を開くことが重要になってきます。

「心の窓」を言う場合には「open」の窓ということが参考になります。

① Open Self known to self known to others	③ Blind Self not known to self known to others
② Hidden Self known to self not known to others	④ Unknown Self not known to self not known to others

The Johari Window

Johari の窓

この図で見ますと、私たちの心は大きく四つに分類でき、各パートの面積は大きくしたり、小さくしたりすることができるといいます。生徒理解には、教師自身が①の面積をできるだけ大きくして、②③の面積をできるだけ小さくして、教師自身が裸の自分を見せることが肝要です。

次に問題行動に密接に結びついているのが学業の問題ですから、学習指導の問題は、なおざりになりません。

教室や周囲の環境整備、美化も重要な一面です。また、家庭といかに協力しあうかが大きな問題となります。基本的な生活習慣、学習習慣、性格形成、対人関係を除く嫉妬などは、ほとんど家庭において

なされるものだからです。基本的な生活習慣、基本的な生活習慣とは何かと申しますと、まず、健康・安全が中心となります。第二が整理整頓です。第三が規則をきちんと守ることです。校則については世論がうるさいのですが、決められた規則はきちんと守る、これは、重要なことです。その際、規則の作成に生徒に参加させることが有効です。上から「守りなさい」と押し付けるのではなく「皆で決めたことだから守ろう」という姿勢が大切です。第四に時間を守ることです。学習習慣も時間をきちんと守るといふことから始まります。第五に物や金銭をきちんとすることです。欲しいものを何でも買いつけて結局はわがままな子供に育てている例は、枚挙にいとまがありません。小遣いの使い方、物の活用の仕方が上手になることが大切です。第六は公共道徳を守ることです。第七は、前述の学習の問題です。学習の習慣は小学校三年生で大体形成されるといいます。中学校や高校では、既に遅いわけです。学習習慣以外の習慣は、後からでも身に付けることが出来ますが、これだけは、頭では理解しても実際には身に付かないのです。第八は、対人関係の円

滑さです。つまり、集団生活が出来るかどうかの問題なのです。他と協調できるかどうか、これが肝要なことです。

遊びの大切さ、社会性に関連して最近重視されつつあるのが、「遊び」です。心に余裕があつて「遊び」ができるわけですから、今後週休二日制の普及にともなつて大きな問題になつてくるでしょう。あくせくと一生懸命勉強して、目標を達したが、心の健康が保てず、にいわゆる燃え尽き症候群になつてしまふ子供たちが非常に多いのです。

問題行動の具体的様相とつきかけ  
① 基本的な生活習慣が身についておらず、家族の食事の団欒の余裕もない。校内で擦れ違つても挨拶ができない、先生たちにもそれができない。

② 人間関係がうまくいかず、友達が少ないか、全くいない。協調

性が無く仲間が孤立している。

③ 言葉交わすことが少ない。相手を信用せず、しかし自分自身に主体性があるわけでもない。内にもつて心を開かないわけです。

④ 学習意欲が乏しい。(a)つまんねえなあ (b)めんどうだ (c)「もうやめた」 (d)「だって」という言い訳 (e)なんかおもしろいことねえかなあ これらは、学習意欲の乏しい子供の常使用する言葉です。それらが出たら要注意です。その他疲労感をすぐ訴える、姿勢が悪い、運動ができない等も要注意です。

問題行動への対応策 では、我々は、これらにどう対応していけばいいのでしょうか。まず第一に前述の Johari の窓の①の部分、ego の部分の面積をできるだけ広げること、つまり教師自身自身分をオープンにし、心の触れ合いを大事にすることです。

第二は、生徒と多くの時間接することです。それが出来ない場合には、子供を知る情報のアンテナを持つことが必要です。第三には、これら行動観察の不足を補うために性格検査を行うことです。検査をおこなうためには、その検査の性格をよく知っておくことが必要です。

第四は生徒理解のための相談面接を行うことです。これと関連して教員相互の密接な連携、相互理解が必要です。教師同士の共通理解を怠る学校ほど校内暴力が多いと言つて過言が報告されています。担任一人の掌握できる生徒数は二十人くらいと言われておりますが、現状では、教師は、その倍くらいをかかえて奮闘しています。そこであればあるほど、教師間の連携が大切になってきます。

第五は「受容と共感」の心で教育相談に当たることです。

第六は「教師自身の性格や技術を錬磨」することです。これには①寛容さ②感受性の豊かさ③精神的健康さ④知識や技術などが必要

です。生徒指導は、熱心さだけでは、ダメなのです。

要は豊かな人間性と情緒の安定が生徒指導には必要で、それは、そのまま生徒指導主事に必要な資質でもあります。

(文責 秋田県教育センター 企画広報担当)



田中氏の講演風景



本県を拠点に

東北社会科研究発足

昭和三十三年十一月、東北社会科研究協議会が発足。高橋一郎氏（秋田高校長）が会長に就任され、第一回研究大会が本県で開催されることとなった。

昭和三十三年四月二十七日(日)〜二十八日(月)の二日間

# 秋田県教育凡そ記

社会科の巻 その2 (充実期) 渡辺俊雄

にわたり秋田大学学芸学部附属小学校を会場に「従来の社会科教育の反省にたつて、東北における社会科教育の振興をどのようにしたらよいか」を大会主題に掲げた実演授業には、高橋了順、丸山亮、千葉信一郎、皆川昭宏、成田伊代吉、野尻滋の各氏が当たられ、充実期に入った社会科の先導的役割を見事に果たされた。

## 高校社会科研の歩みから

高校社会科（社会・世界史・日本史・人文地理）教育の充実を期するため、昭和二十五年、岡田良吉氏（秋田北高校長）を世話人として結成された秋田県高等学校社会科研究会は、昭和三十年代に入つて、村岡一郎氏

（秋田高校長）を会長に、三浦鉄郎氏（秋田高校）を幹事長として、いよいよ充実の度を加え、武藤鉄城氏（県文化財委員）、半田市太郎氏（秋大助教）、古田良一氏（東北大名誉教授）、奈良修介氏（県文化財委員）、工藤吉治郎氏（秋大教授）、尾留川正平氏（東京教育大助教）らを講師に招へいして活発な研修を展開すると共に、会員による実践研究の成果の交流も盛んに行われるようになった。

齋藤實則氏（湯沢北高校）の「経済地理に関する若干の考察(昭・33)」・「人文地理に関する若干の考察(昭・35)」や三浦智孝氏（秋田南高校）の「高校世界史の指導(昭・40)」、山本隆氏（県教育研究所）の「地理的意識の発達をどうとらえるか(昭・41)」・「地図の指導をどのようにしたらよいか(昭・41)」などは、当時の社会科研究同人の実践的研究の成果を象徴する貴重な労作といえよう。

また、学校訪問での佐藤久治氏（秋田北高校）の倫社の授業(昭・41)、佐々木寛一氏（大館鳳鳴高校）の日本史の授業、岡部宣夫氏（大館鳳鳴高校）の地理の授業(昭・42)などは、周到な教材研究のもとに、生徒を強く引きつける指導法を工夫されていた点で強く印象に残る。

## 系統的社會科への戸惑い

昭和二十年代の経験主義教育への反省から、系統的な学習が重視されるようになった昭和三十年代の社会

科では、県として基準になるカリキュラムを示して欲しいという現場からの要請が相次いだ。

昭和三十年十月に発刊され、県内各校に配布された「秋田県社会科基準教育課程」はその要請にこたえたもので、国の教育課程全面的改訂の発表から、わずか五か月の短期間で、大槻久助氏（県教育研究所長）を委員長に半田市太郎・北条寿・片野健吉・岩谷貞三・渡辺俊雄・免沢道孝・平川準一・仲間清・佐藤良太郎・菅原謙一・三丸真悦・薄葉篤蔵・皆川静・那須久・鎌田宏・奥村新一の各氏の熱意とチームワークによってまとめ上げられた汗の結晶であった。

## 郷土学習資料の開発進む

社会科学習の基点は郷土にあるという視点から、昭和三十年代から、郷土資料の作成が精力的に進められるようになった。

高瀬忠廣氏（秋田市社会科研究会）を中心に秋田市内小中学校の会員が一年有半にわたつて資料を収集してまとめ上げた「のびゆく秋田」(昭30・4月刊行)は、市町村版のモデルとなった。

全県版としては、石井節蔵氏以下四十名の秋田県社会科教育研究協議会員の労作による「郷土の生活―ひらけゆく秋田県―」がある。本資料は前述の「秋田県社会科基準教育課程」に準拠してまとめられたもので、昭和三十年十二月の発刊となっている。

続いて昭和三十六年七月には、荒川広得、小松善之助、高橋健治、鶴谷金三郎、斎藤恭一、高橋興一、平川英一氏ら、秋田県社会科教育研究協議会のエキスパートにより、「わたしたちの秋田県」が刊行された。本資料は昭和三十三年改訂の学習指導要領に準拠して作成されたものであった。

以上は児童生徒向けの資料として作成されたものであるが、教師向けの資料として、昭和四十二年二月に県教委から「ひらけゆく秋田」が刊行されている。

清水通良氏をキャップとし、佐々木豊氏を世話人とする指導課のスタッフと川上富三、渡部綱二郎、安村二郎、中川良太郎、山脇平太郎、小玉昌友、梅津嘉弘、太田実、戸沢敬三郎、水沢敬吉氏らの絶大な協力を得て作成されたものであった。

その後数多くの社会科学習のための郷土資料の開発を見たことは申すまでもない。

以上、草創期から充実期にかけての本県社会科教育の系譜を筆者のつたないメモを中心にまとめてみた。

(元明德小学校長)

編集部から 渡辺先生には短時間にしかも限られたスペースの中に戦後の秋田県社会科教育の動きを二回にわたつて活写していただきました。なお肩書はすべて当時のものであります。今回は算数、数学の巻です。

# 第2回 夏季教育セミナー

テーマ 「これからの学校教育を考える」

主催 秋田県教育委員会  
 主管 秋田県教育センター

所 秋田市文化会館  
 時 8月17日(木)  
 8月18日(金)

本県教育のかかえている課題の解決にむけた  
 当教育センターの研究を公開し、それを基調に広く意見を  
 求め、学校教育の活性化を目的とする。

## シンポジウム

テーマ 「これからの秋田県の学校教育を考える」

講 師 前川盛太郎氏(岩城町町長)、藤川浄之氏(秋田魁新報社編集局長)  
 平間文次氏(本荘市教育長)、船越準蔵氏(大森山少年の家所長)  
 コーディネーター 三浦順治氏(秋大教授)

## 研究発表 (秋田県教育センター・プロジェクトチーム)

第Iプロジェクト 「国際理解を深める学校教育の在り方」  
 第IIプロジェクト 「パーソナリティの変容を促す教育相談の在り方」  
 第IIIプロジェクト 「学校教育における自己教育力育成の在り方」

## 課題別協議会 (テーマは研究発表に同じ)

第1分科会 「国際理解」 (第Iプロジェクト) 第2会議室 (4階)  
 第2分科会 「教育相談」 (第IIプロジェクト) 大会議室 (5階)  
 第3分科会 「自己教育力」(第IIIプロジェクト) 小ホール (2階)

## 日程・内容

12:40		1:40		2:00	4:00
8/17	受 付	20周年 式 典	開 会 式	シンポジウム 上記の5名の方による	
9:00		10:00	12:00	1:00	3:30
8/18	受 付	1 経過説明 2 研究発表	昼 食 休 憩	課題別協議会 プロジェクトによる3分科会	

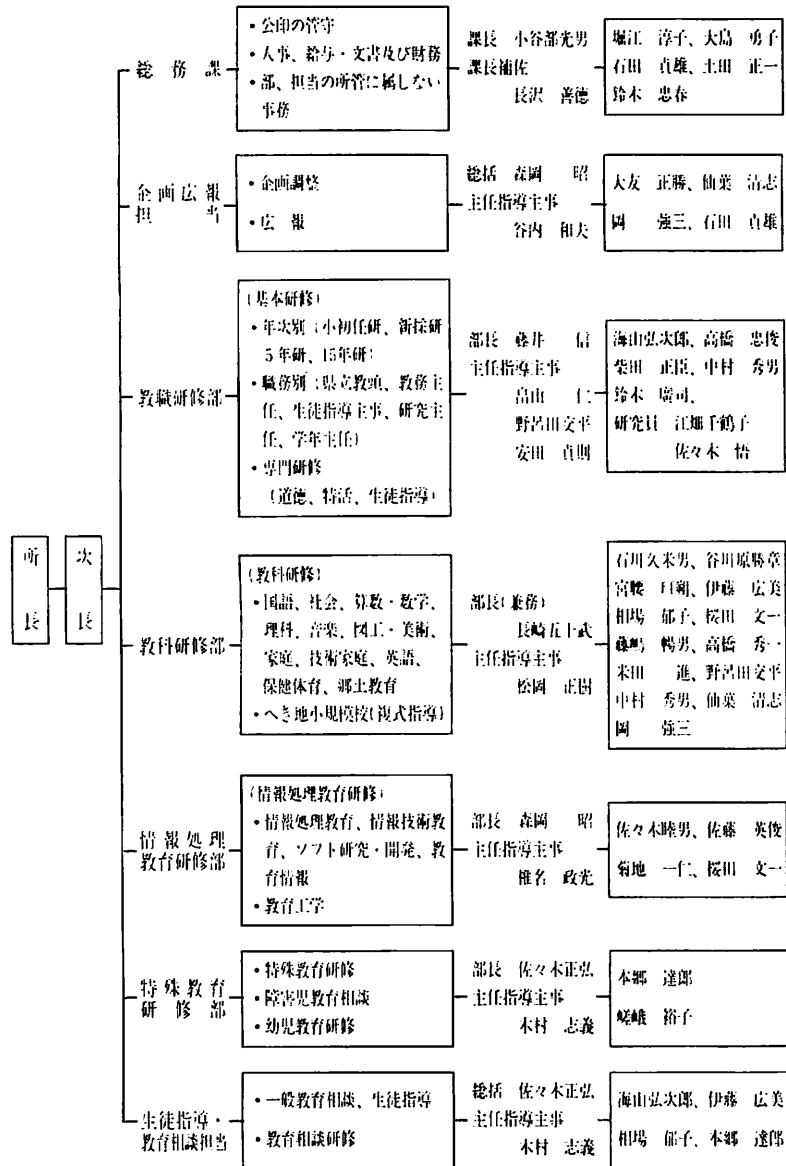
※17日は20周年記念式典も合わせて行います。

申込先 〒010-14 秋田市仁井田緑町4番2号  
 秋田県教育センター ☎0188(32)3594

申込方法 各校に配布した実施要項の申込書  
 で申し込んでください。

## 運 営 機 構

秋田県教育センターの機構は、秋田県教育委員会行政組織規則第18条では1課4部となっているが、平成元年度においては、2担当を加えた組織で運営しています。



## 人 事 異 動

### <転 出>

所 長	岡部 宣夫	横手高等学校長へ
教科研修部長	斎藤 實則	湯沢北高等学校長へ
特殊教育研修部長	佐藤 一雄	秋田養護学校長へ
主 査	今野 久	県立秋田図書館主査へ
主任指導主事	椎名 靖典	雄物川高等学校教頭へ
"	工藤 哲弥	八森中学校長へ
"	鎌田 義雄	井川小学校教頭へ
指導主事	塚本 寿之	岩子小学校教頭へ
技 師	渡部 儀孝	新屋高等学校技師へ

### <転 入>

所 長	藤田 幸雄	雄勝高等学校長から
教職研修部長	藤井 信	角館高校(定)教頭から
特殊教育研修部長	佐々木正弘	秋田養護学校教頭から
課 長 補 佐	長沢 善徳	幼児・養護教育課主査から
主任指導主事	野呂田安平	能代第一中学校教諭から
指 導 主 事	海山弘次郎	天王中学校教諭から
"	高橋 忠俊	合川東小学校教諭から
"	柴田 正臣	琴丘中学校教諭から
"	中村 秀男	大曲中学校教諭から
"	伊藤 広美	本荘高等学校教諭から
"	藤嶋 暢男	白岩小学校教諭から
"	菊地 一仁	御野場中学校教諭から
"	嵯峨 裕子	中通小学校教諭から
技 師	鈴木 忠春	勝平養護学校技師から

### <兼任異動>

次長兼教科研修部長 長崎五十武 次長兼教職研修部長から

### <昇 任>

主任指導主事	谷内 和夫	指導主事から
"	椎名 政光	指導主事から
"	安田 貞則	指導主事から

## 昭和63年度 刊行物の案内

- (1) 研究紀要(第20集)
- (2) 教育研究資料目録(第21集)
- (3) 干拓後の八郎潟とその周辺地域の姿容
- (4) パーソナルコンピュータ教育用ソフトウェア目録 第1集
- (5) 登校拒否指導の手引き
- (6) GAMES AND ACTIVITIES FOR JUNIOR HIGH TEXTBOOKS

(Compiled by Denise Oliveri)

干拓後の八郎潟とその周辺地域の姿容

LET'S ENJOY ENGLISH

ゲームを応用した英語学習の進め方 — 中学校編 —